

## ボルネオ島キャンプ

- 開催日 2019年3月25日(月)～31日(日)
- 会場 マレーシア・ボルネオ島
- ディレクター名 奥 京子(ぱぴこ)

### ■キャンプのねらい

- 自分自身でチャレンジへの一歩を踏み出せるようになる。
- 遠い国の問題が身近な暮らしに関わっていることに気づく。
- 日本の暮らしをふりかえり、次のアクションに繋ぐ機会にする。

### ■同行スタッフ(キャンプネーム)

ぱぴこ(国際自然大学校ディレクター)  
 Dannyさん(現地ガイド)、  
 Williamさん(パパール村ホームステイ先代表)

### ■活動内容

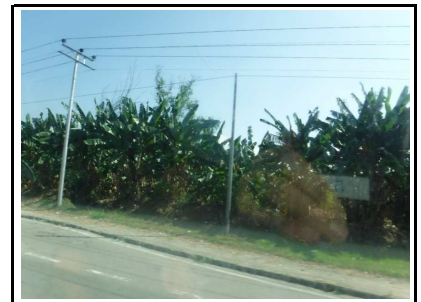
- <1日目>  
集合、ボルネオ島到着  
チェックイン、夕食、ふりかえり
- <2日目>  
ホームステイ先へ移動  
海へ散歩、ホームステイ
- <3日目>  
現地の学校訪問  
日本の遊び、おやつ紹介  
地元のダンスパーティー
- <4日目>  
パームオイル工場見学、ジャングルクルーズ、  
ナイトクルーズ
- <5日目>  
ホストファミリーとお別れ、市内観光
- <6日目>  
市内観光(お土産購入)、  
ラストナイトパーティー
- <7日目>  
チェックアウト、日本へ帰国



朝早く、成田空港でメンバー集合!



初日の夕食はホテル近くの海鮮料理屋にて。



二日目、南国の景色を眺めながら、ホームステイ先のパパールへ!



村の歓迎ドリンクは、ヤシの実ジュースでした。お味は…!?



こんな珍しいおやつのおもてなしも!?(意外とおいしい!)



ホームステイ先のお家へ!みんな楽しそうで、しかも大きなお家!



夕方は、夕日を見に近くの家へ!広いビーチを満喫です。



地元の小学校へ交流をしいきました。みんな優しい!



マレー語講座。これで村の人たちと話せるようになったかな!?



伝統的な「屋根」作りにも挑戦。椰子の葉っぱを編んでいきます。



ココナッツ粉と砂糖を使った現地ののおやつ。素朴でおいしい！



日本の子たちもカルメ焼き、白玉団子、どら焼きを紹介しました！



今度は日本の遊びを紹介。紙風船、折り紙、風船玉など紹介しました。



元気いっぱいの村の子どもたちと一緒にサッカー対決！



夜は、村の伝統的な踊り「パンブーダンス」に挑戦！みんなノリノリ！



パーム油工場では工場長から直接話を聞くことができました。



さすが南国の市場！バナナやスイカ、マンゴーなどが山盛り！



野生動物保護区へ。ボートに乗って、リパークルーズ！

## ■キャンプのエピソード

### スマホで異文化交流！？

ホームステイ先のパパールという村の方達は、みんなスマートフォンを持っていることにまずびっくり！中学生くらいの子どもから年配の方まで、みんな必ず片手にスマートフォン持っていました。

村の方達は、マレー語と英語を話しますが、日本の子どもたちは簡単な英語しかわからないため、コミュニケーションに苦戦していました。すると、現地の女の子がマレー語から日本語に変換して、その画面を見せてきたのです！変換がちょっとおかしなところもありましたが、なんとなく言いたいことはわかったようです。

身振り手振りでなんとか伝えようとがんばるのも一つの経験ですが、スマートフォンという文明の利器を使って、よりたくさんコミュニケーションをとって意思疎通することも一つの楽しみなのかなという新しい気づきがありました。

### パームオイル工場見学

日本の食用油でもおなじみのパームオイル。そのほとんどがボルネオ島で生産されています。プランテーションによる森林破壊などが問題視されている関係で、一般の、ましてや外国から来た子どもが工場を見学することはとても難しいと事前に言われていました。しかし、今回は特別に中に入れてもらえることになりました！

原料のアブラヤシから油ができるまでの工程を説明していただき、実際にアブラヤシの実や、しぼりたての油を見せてもらいました。100mlの油を作るのに、100個くらいのアブラヤシの実が必要なこと、油をしぼった後の「カス」も、燃やして燃料や肥料にして循環させていることなど、勉強になりました。

普段食べている料理に、ボルネオ島で生産しているパームオイルが使われているかもしれないところから、自分たちの暮らしとボルネオ島のつながりや環境問題に目を向けるきっかけになってくれたらと思います。





三種類の野生の猿に会うことができました！



お世話になったホームステイのパパさん、ママさんとお別れ。



動物園にも行きました。巨大ヘビを肩に乗せてもらいました！



リパークルーズで見た「テングザル」間近で観察できて大興奮！



最後の夕食はフードマーケットにて。現地の味にも慣れて、満腹！



六日目はお土産タイム。ランチはみんな大好？マクドナルド！



車の中から、とても立派なモスクを拝むことができました。



お世話になったガイドのダニーさんとお別れ。いざ、日本へ！



クアラルンプールでの乗り換えを経て、無事に帰国！

## ■キャンプのエピソード

### リアルな「ジャングルクルーズ」！

四日目に訪問した野生動物保護区のリパークルーズは、本物の「ジャングルクルーズ」！ボートに乗って、ジャングルの川を進んでいくのは、本当にワクワクドキドキしました。

みんなで双眼鏡とカメラをスタンバイさせ、キョロキョロしていると「ガサガサ」。テングザルが木の上に！「どこ？」と、みんな一気にボートの片側に寄って行くので、ボートがひっくり返らないかハラハラしながらも、必死にシャッターを押します。野生の、しかも日本にはいないテングザルに出会えたことはとても貴重な体験。残念ながら、子ども達が楽しみにしていたワニを見ることはできませんでしたが、ナイトクルーズの時にライトに照らされて光るワニの「目」を見ることができました。

野生の動物は、森のどこかにいるとわかっていても、姿を見れるかどうかはその時の運次第。そんな野生ならではのワクワクドキドキを味わうことができました。

### 「ブラパリンギッ？」でお買い物

現地では子ども達に買い物も楽しんでもらおうと、常にお財布はもっててもらいました。気になるものがあれば買ってみよう！と、スーパーや動物園の売店などで、買い物に挑戦していました。「何リンギットですか？」は、マレー語で「ブラパ リンギッ？」と言います。

はじめはモジモジして言いにくそうにしていた子ども達ですが、一度買い物をすると楽しかったようで、自分から交渉するようになっていました。紙幣やコインも日本と全然違うため、支払う時に戸惑うことはありませんでしたが、それも経験。外国に行くとその国のお金の単位にも慣れないといけないのだな、ということがわかったのではと思います。

最終日は買い物三昧で、自分が持っているお金をなんとか使い切ろうと、電卓片手に買い物する子、店員さんに値切ることを覚え、交渉成功！と、嬉しそうに報告する子など、自分のスタイルで買い物を楽しんでいました。